

目指す学校像	◆子どもたちがすすんで登校したい学校 ◆教職員が働きがいのある学校	◆保護者と教職員がチームとなる学校 ◆地域とともに発展する学校
--------	--------------------------------------	------------------------------------

重点目標	1 学力向上に関する取組…よい授業を達成する授業マネジメントの一層の推進 2 安心・安全に関する取組…withコロナの教育活動の推進と適切な施設・設備管理 3 開かれた学校づくりに関する取組…地域・保護者と教職員がチームとなる学校づくりの推進 4 教職員の資質向上に関する取組…教職員が働きがいのある職場環境の構築との資質向上の推進
------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価						学校運営協議会による評価		
年 度 目 標				年 度 評 価				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●全国学力・学習状況調査や市学状況調査は良好な結果である。 ●集中して授業を受けることのできる児童の割合は多い。個別の対応が必要な児童・個別の対応を求める保護者は増加している。 ●教職員の教科指導に対する熱意、研修に臨む姿勢はとてもよい。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教職員個々の授業マネジメントの基準・授業スキルに差がある。 ○個別の対応が必要な児童の増加に対し配置された教職員数で対応するため、教職員の個別最適な学びの対応力を向上させる。 	授業マネジメントの見直しによる授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ①教育課程の再編成を行い、5分間の休み時間を10分間に変更する。 ②教科担任制の導入による専門的な質の高い授業の提供。担任授業学年における専門性を生かした指導教科の交換授業を実施する。 ③タブレットPCを学用品として活用する授業の展開。最適なアプリを活用することで、児童個々の学びの速さ(学習進度)に合わせた学習指導の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ①チャイムで始まりチャイムで終わる授業実施状況確認 ②よい授業のアンケート結果 学校関係者評価 ③ICTを活用した授業の実施状況 学校評価 	<ul style="list-style-type: none"> ①5・6年生で導入した教科担任制は、従前の小学校教育の在り方から考えると大きな変革であったため、各教員の意識に差が生じていたが、高い効果は実感できる。チャイム(授業時間)の厳守も意識の差がみられるが、全体的には整ってきている。 ②教科担任制は児童にとっても良い効果が確認できる。 ③ICTの活用については、教育効果・授業の流れを優先し、必要な場面で効果的に活用できている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ①チャイムで開始し、終了する授業マネジメントについては、教員の意識の向上を図り日常的な習慣化を目指す。 ②教科担任制は全学的にメリットとデメリットが確認されているが、本校の5学級編成は最も効果的に実施できることから、教員の教科担任と学級担任の意識の持ち方を整理し一層の推進をする。 ③現時点においても端末が全員に配付されていない状況及び修繕により手元のない児童がいるといった現状から、効果的な活用を研究していく。 	<p>学校運営協議会からの意見・要望・評価等</p> <p>実施日令和5年2月6日</p> <p>教員は、子どもたちを思う気持ちを今後も大切にしていきたい。</p> <p>「教育する=育てる」意識を持ち、目標・目的を明確にして教育活動に従事して欲しい。</p> <p>教科担任制による指導力の向上には、更に期待がもてる。</p> <p>生活習慣などは、家庭で身につけさせたい。</p>
2	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●大規模校のリスクから、コロナ陽性者の発生率が高いが、学校での感染拡大のケースはあまりない。家庭環境等の要因により周辺の学校よりも罹患者の発生が早く、2年生の発症率が高い。 ●上記の理由から、保護者の来校・学校公開の機会が少ない。 ●体育館の老朽化(雨漏り)がある。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○感染防止対策を講じての教育活動・学校公開等の実施。 ○老朽化した施設の修繕 	<p>感染防止対策を講じての学校運営</p> <p>施設・設備の安全管理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①コロナ対策プロジェクトチームを編成し、各担当視点で安全な教育活動推進の指針・対応策を検討し、全校で実施。 ②コロナ感染症の拡大状況を常に確認し、工夫した取組を行う。危険が予想される場合は、中止をする。 ①市教委と連携し、数年に渡る計画的な修繕計画を立てる。 ②月例の安全点検を行い、早急な対応を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①毎日の校内発症状況確認 学校関係者評価 ②毎日の健康観察集計結果確認 近隣学校との情報連携 学校医・PTA会長等との事前協議の実施を受けての判断 ①校長マネジメント予算の計画的な執行 ②安全点検実施状況・要修繕事項の確認 学校評価 	<ul style="list-style-type: none"> ①家庭からの電話等連絡→担任→保健室→管理職の情報連携により、校内の状況は常に確認できた。 ②確認できた情報を元に、必要な関係者と連携をし、安心・安全な学校運営をすることができた。 ①②老朽化により、夏場の空調機の不調が予想されたことからマネジメント予算は基本的任空調機メンテナンスにあて、できる限りの整備を実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ①②新型コロナウイルス対策をプロジェクト化したことで、各担当が自走(自ら課題を発見し、対応策を考える)した対応を取るようになったことで、安心安全な学校が一層向上していることから。今後もプロジェクトチーム化による対応を継続する。 ①②予算額と対照した空調機数から計算(複数年計画)すると、メンテナンスが追い付かない現状がある。一層の工夫を思案中。 	<p>特になし。今後もマニュアルに従って安全な学校運営をお願いする。</p>
3	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●本校の実態から、感染症拡大防止措置により、学校行事・保護者の来校機会を必要により制限している。 ●児童は教職員の感染防止対策指導を守り、校内での感染防止措置は適切に実施できている。 ●SC・SSWの専門的な教育相談が効果的に行われている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校からの積極的な情報の提供方法の一層の工夫 ○保護者との相談・情報共有の機会の時間的な確保 ○コミュニティ・スクールの活用 	開かれた学校づくりの一層の向上を達成する地域・保護者と情報共有と教育力の活用	<ul style="list-style-type: none"> ①学校からの情報発信の方法を工夫し、必要な情報の効果的な情報提供方法を模索する。 ②毎週水曜日を教育相談日として設定し、積極的な教育相談の機会を提供する。 ③チャレンジスクールで地域の教育力を積極的に活用する。 ④学校運営協議会を中心に、コミュニティ・スクールの活用方法を検討し、計画的な取組を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①ICTを活用した情報提供の実施状況確認 学校関係者評価 ②心と生活のアンケート結果 学校関係者評価 ③チャレンジスクール実行委員会評価・反省 ④地域の教育力を活用した取組の実施 学校関係者評価 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校安心メールやteams等を活用し、必要な情報を提供できた。 ②心と生活のアンケートの結果から、子どもの特性や精神の状態を把握して学級経営に臨ませることができた。 ③チャレンジスクールを計画的に実施することができた。 ④地域の教育力の活用を学校運営協議会で熟議したことで大きな方向性と詳細な課題が確認できた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ①令和2年度まで実施していた、学校HPでの毎日の子どもの活動報告は、子どもの安全・個人情報保護の観点から理解できない。学校は、家庭内での団欒を推進する策を講じることが大切である。おやじの会の活動が再開できていて、有効に活用することで、学校や地域への理解、地域の教育力の一層の推進につなげたい。 ④地域の教育力の活用には、子どもの安全の観点から、慎重な計画をたてて取り組んで行く。 	<p>学校HP上での子どもたちに係る画像掲載の廃止については子どもの防犯・個人情報保護の観点から理解できない。学校は、家庭内での団欒を推進する策を講じることが大切である。</p> <p>おやじの会の活動が再開できていて、有効に活用することで、学校や地域への理解、地域の教育力の一層の推進につなげたい。</p> <p>保護者の価値観は様々であり、個々の対応に多くの時間を割いている現状から、教員としての関わり方の資質向上・一層の工夫することで、教職員の負担軽減を期待したい。</p>
4	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●多くの教職員が教育公務員としての使命を強く認識し意欲的に教育活動を行っている。3年間に渡りSTEAMS教育を研究し質の高い授業を実施している。 ●働き方改革の意識は向上しているが、仕事量の軽減では多くの課題がある。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○意識改革による対応業務の軽減と効率化。 ○学校課題・年次研修・ICTを活用した授業研究による授業スキルの一層の向上 	働きがいのある職場環境の構築との教職員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> ①人事評価シートを活用し、教職員個々が明確な目標をもって仕事に従事させる。 ②研修主任を中心に全校で研修に取り組み、児童の望ましい変容を確認することで達成感を味わう。 ③1日の業務内容を毎朝確認させ、計画的な執務を実施し、在校時間の管理・心身の健康状態を定期的に確認する。 ④研修機会の積極的な提供の推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ①人事評価面談(中間面談の活用) ②指導主事を招聘しての研修会の計画的な実施 研究発表会の実施と反省 ③出退勤管理システムの結果の活用と個々の声掛けの実施による見取り ④教職員間情報誌の発行による情報連携の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校の課題を具体的に示したことで、教職員の課題に対する一層の意識の向上は達成できた。 ②指導主事を効果的に活用した研修を4回+α実施することで質の高い研修となり、子どもたちに質の高い授業を提供できた。 ③出退勤の状況は、全体的に良好である。個人的に課題のある教職員もほぼ解決してきている。 ④教職員のよい取組の紹介を実施。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ①②③④働き方改革の観点からは、仕事の効率化・対応数の削減が必須であることから、教育効果と費用対効果(労働力の合理性)を今後も追求していく。また、「よいから」を理由に削減できないもの多い現状を変えるために、学校運営協議会やPTAの意見を活用していく。 	<p>教員は、各家庭の様々な事情や考え方に寄り添い、よく努力をしていると感じる。</p> <p>教員の笑顔が少ないと感じることがある。職場環境を整える工夫を期待する。</p> <p>教員の達成感を大切にしたい。教員を目指したいと思われるような教員であってほしい。</p>